千刈狸の呟き

～ つながる世界、隠れられない世界 ～

仔　狸

少し前は飲食チェーン店の不適切動画の拡散だったり、最近はあおり運転やいろいろな犯罪が動画でワイドショーに流れるようになった。防犯ビデオ映像はもちろんのことだが、最近のドライブレコーダーの普及やスマートフォン（スマホ）による動画の撮影など、視覚的に入ってくる衝撃的な映像は注目されやすい。SNSを使うことによっていろいろな映像は世界中に拡散されてしまう。スマホは非常に便利なツールで、電話やメールの通信のみならず財布であり通帳にもなってしまった。ペーパーレス、キャッシュレスを目指す時代には必要不可欠なものである。

仔狸は二つ折り携帯電話（いわゆるガラケー）をずっと愛用していた。新機種にするタイミングは何回かあったが、あえてスマホにしなかった。正直なところあまりほかの狸達とつながることを好まなかったからである。病院からの緊急な連絡だけ確実に入ればあとは外界とつながっている必要はないと考えていたので、同窓会やら仕事仲間からLINEのグループ・・・といわれた時も「私ガラケーなので」とやんわり断っていた。最後に使っていたガラケーに不具合が生じたときに、もはや修理は不可能といわれ泣く泣くスマホデビューすることになった。個狸情報が洩れるのではないか心配でいろいろな機能は導入していないし、ネットのニュースは字が小さくてよく見えず、夜中に着信を確認しようとして間違えて発信してしまったり、未だ使いこなすには程遠い状態である。今はスマホ一つ持てばほとんどの用事が果たせる時代なのだとは思うが、カバンの中にはスマホと財布と手帳が同居している。

仔狸がこの世界に入ったころは、携帯電話はごく一部のマニアックな人が持っているような時代だった。ポケットベル（ポケベル）が病院からの呼び出しに使うツールの主流で、メッセージが入っていて発信元や緊急性を区別したりした。仔狸はポケベルのころの疎なつながりが好きだと思っている。自宅でポケベルが鳴った時は、発信元をチェックしながら何が起こったか想像を巡らせながら電話をかけるし、外で鳴った時は懸命に公衆電話を探す。迅速な対応はできない場合もあるが、病院と自分との間の通信に関しては多少なりとも自分が主導権を握っている。なのに・・・今は完全に捕らわれの身である。アンテナが少ないから圏外ということも少なくなったため、つながらないことが珍しく、どこにいても捕まえられてしまう。病棟から連絡があって返答がない場合は、「連絡したがつながらず」としっかり電子カルテ上に記録が残されてしまう。

これほど通信機器に縛られていることを窮屈に感じながらも、つながらないことは非常に不安である。PHSやスマホのバッテリーが少なくなれば充電しておかないと心配だし、当番の時に連絡が来なければ電波状態が悪いのか気にかかる。仕事中も気づかなかった着信がないのか何度も着歴を確認し、入浴中はPHSが脱衣所の定位置で待機しているし、外食に出かけたときは店の電波状態が悪いと安心して食事ができなくなる。これはもはや心を病んでいるとしか思えない状態である。つながることが嫌と思っているから、つながらなかった時の罪悪感が大きいのだと思う。

最近、働き方改革・有給休暇の取得など世の中では自分たちを楽にしてくれるようにいろいろな制度を整えてくれる方向で動いてくれているとは思う。今のつながる世界に暮らしている私たちは、休暇とはいえ必要時はいつでも連絡が付けられるだろうし、心配なことがあれば自分から連絡してしまうだろう。休暇だからといって接続を遮断できる勇気を持たなければ本当の意味での休息は取れないだろうなとも思うが、最終的な連絡ツールがつながっているから自分が取り残された感じがなく休暇がとれると思った方が良いのかもしれない。

COVID-19（新型コロナウイルス）の感染拡大で、出勤せずにネット回線を使った在宅勤務をする会社があったり、治療現場の壮絶な映像が配信されたり、ネットワークシステムが有用なツールとして利用されている。一方、電波などの長距離の飛び道具を持たないウイルスが、接触・飛沫・（空気）感染というある意味アナログな形式でありながら、世界中に拡散しているのは皮肉な話である。